梼原町社協だより

的可能仍然

目次

新年の挨拶/まごころ弁当配食の御礼・・・・・・・1P ゆすはら複合福祉施設設立準備室よりお知らせ・・・・2P ちょっと聞いてや~~みんなに知っちょいてもらいたい~・・・3~4P 輝く梼原人!み~つけたっ!・・・・・・・・・5P 笑顔つながれ!! 輪ッハッハ~町内各種団体リレー~・・・・・6P

Cover's Story (バリアフリーXmas)

第20号

平成 30 年

1 A











ゆすはら複合福祉施設 設立準備室よりお知らせ

【お問合せ】

社会福祉法人梼原町社会福祉協議会 立道•山中 (担当) FAX 0889-65-1802 電話 0889-65-1800

きます。 快適に過ごしてい に、当施設において 寄贈いただきまし ございました。 に使わせていただ ただけるよう、大切 た。ご利用者の皆様 活用してください」 と車いす二台をご より、退任にあたり 「複合福祉施設で 矢野富夫前町長 ありがとう



えで、

現場での運営方法や利活用の方法について体 本施設を指定管理者として管理していくう

また、

定管理 |者の指定を受けました||合福祉施設(YURURIゆすはら)

侵合福祉施設建築現場を

見学してきました

すので、 法人が指定管理者として運営させていただくことと なりました。本年四月開所に向けて取り組んで参りま ら)の指定管理者の指定に関する議案が可決され、当 において、 昨年十二月に開催された梼原町議会十二月定例会 (指定期間は平成三十年四月一日から 今後ともよろしくお願い申し上げます。 梼原町複合福祉施設(YURURIゆすは

平成三十五年三月三十一日まで)

車いすをご寄贈いただきました



を見学いたしました。 十二月七日に、 ゆすはら複合福祉施設の建築現場

した。 井、重厚な鉄骨やフレームなど、日ごろなかなか見る 雑に配置された配管や電線がむき出しとなった天 ことができない躯体内部の状況を見ることが出来ま 施設を覆う足場の隙間から内部に入りますと、

ご利用いただく皆さまに、よりよいサービスがご提 供できるよう協議を重ねていきたいと思います。 きました。 感することができ、 今後も、こうした取り組みを重ねながら、 具体的にイメージすることがで 本施設を



皆様お揃 ましてお お迎えのこととお慶び申 **()** で輝 めでとうござい しい新年を ます。 し上げ ます。

矢野 豪佑

協力を賜り心より感謝申し上げます 年中は、 本会の各種事業の推進に対しまして、 深いご理解とご

祉計画・梼原町地域福祉活動計画を策定し、 ら住民の皆様の「住み慣れた梼原で安心して暮らし続けた 理運営を担っていくこととなり、 共同募金を通じた災害義援金にも度々のご協力をいただきました。 き合う地域福祉コーディネーターの活動に一層注力して参ります。 ら計画や調査結果をもとに、地域に足を運び、一緒に考え課題に向 を実施し、関係各位のご協力を頂き終えることが出来ました。これ を受け六五歳以上の未要介護認定の約千三百名のアンケ R U R I ゆすはら)の指定管理者の指定を受け、本年四月より管 を支え、 年末には昭和三十九年 また、七月の九州北部豪雨をはじめとする災害も全国で頻発し、 の指針と目標を定めました。 三月には行政(保健福祉支援センター)と共に、「梼原町地域福 役職員一同精進して参る所存です。 り宣言」の具現化の一つである、梼原町複合福祉施設(Y 梼原ならではの地域福祉実現の一翼を担って 「福祉村宣言」、平成二十六年「福祉のま 四月から六月の間には、 地域福祉と施設サービスの両面か これからの地域福祉活 卜調査 の委託

皆様方にとりまして、この一年が幸多き年と成り

平成三十年一月





赤い羽根共同募金 ろ弁当配食お礼

10日(日)各区で総勢 115 名のボランティアが集まり、 早朝から調理や配食を行いまし た。心より感謝申し上げます。 各区で知恵を絞った特色のある お弁当はいかがだったでしょう か?まごころ弁当実行委員会を はじめ、ご協力いただきました皆 様に厚くお礼申し上げます。

配食しました!







~みんなに知っちょいてもらいたい~

おげんき発信通信



今回は、四万川区の本も谷でご利用されている方3名にお話を伺いました。正岡榮さんと長山文恵さん はお互いに「おげんきさん」と「みまもりさん」となっていて、松浦芳美さんは「みまもりさん」になっています。



正岡 榮さん(おげんきさん)

メリットは特に思い出せません。続ける内に自然と習慣に なりますので、深く考えないほうが良いと思います。お互い 「みまもりさん」とうことで、気にかけることが多くなりました。

長山 文恵さん(おげんきさん)

最初は苦になったけれど、最近は日課の一部のようになり、慣 れました。始めてからは自分で特に変わったことは無いと思っていま したが、姪には「元気になった」と言われます。また、「おげんきさん」 の姿を見ると気にするようになりました。



松浦 芳美さん(みまもりさん)

在宅かどうかを気をつけるようにしていますが実は、始める前とあまり変わりません。おげんき発信は 手段の1つと考えていて、もし連絡が取れず探すことになっても、むやみに探さないよう気を使ってい ます。年をとるとすぐ忘れるし、お互いに気にしない・心配しすぎないほうが良いと思います。

このお元気発信は、1日に1回の電話ですので「見張られている」という感覚もなく、使い続けることによって 「みまもられている」という思いが強くなる仕組みになっています。興味のある方、勧めたい方などいらっしゃいま したら梼原町社協までご連絡ください。



みんなぁが主役!ボランティアセンター

越知面区災害ボランティアセンター運営模擬訓練

11月5日(日)に越知面地域交流センターで、災害ボランティアセンター運営模擬訓練を開催しま した。今回は初めて野外開催を行い、より実践に近い形で取り組むことができました。越知面区からは、 自主防災組織の方を中心に約40名参加頂きました。この日は県下一斉の避難訓練の日で、梼原高 校野球部も合同で行いました。梼原高校では、一昨年より災害 VC の運営模擬訓練を行っており、今 回は初めての地域との合同開催でしたが、一度経験をしているため、2・3年生がリーダーシップをとっ て運営を行う様子がみられ、日ごろからの訓練の大切さを感じる機会となりました。

どの参加者も積極的に取り組まれており、振り返りでは運営に関するアドバイスや、ボランティアに関 することとして「ボランティアに行くためには、準備物の予測がいる」など、貴重なご意見を頂きました。

梼原町社協では災害時に、より早い生活復旧を目指すため、各区で災害 VC 運営模擬訓練を行っ て参りました。今後は、各区で頂いたご意見をもとに運営を改善し、実際のニーズに対応した内容で訓 練を行うことができたらと考えています。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。







被災地への支援ボランティアに行く際の心得

越知面区での運営模擬訓練で触れた「ボランティアに行く際の準備」など、被災地支援の 留意点について一部をご紹介します。実際行く際には念入りに情報収集をし、せっかくの善 意が迷惑にならないよう、現地の方へ配慮した行動を行うことが求められます。

◆情報収集はホームページで行いましょう

ボランティア募集などの情報は、被災地の市役所や役 場、災害ボランティアセンターのホームページで確認をす るようにして下さい。被災者からの電話がかかりにくくなる 恐れや、メールも回答に時間や手間がかかるため、安易 に電話やメールで問い合わせることは控えるよう求められ ています。

◆宿泊場所や食料は自分で確保し、現地に頼らない 避難所は被災者が避難する場所なので、ボランティア は現地での食事や宿泊場所を事前に確保しておく必要が あります。

◆ボランティア活動時の服装例(屋外作業時)

作業着はケガ防止のため長袖・長ズボンを使用し、被 災地によって必要なものが変わるため、ホームページなど で確認して準備をしましょう。

~外で作業を行う場合の準備例~ **〜** ヘルメット ◯ 防塵マスク ゴム手袋 汚れていい格好、 冬は防寒など 必要資材も ▶その他、 タオルや水筒など (リュックに入れる)

※これは一例です。水害など、現地の被 害の状況や気候、作業内容により準備 が異なりますので、ご注意ください。





前回の梼原町スポーツ推進委員の西村俊二さんにご紹介いただき、

今回は 社会福祉法人カルスト会 理事長 中越 平 さん にインタビューしました。

カルスト会の第5代目理事長である中越平さんのお話をお伺いしました。 長年カルスト会で勤務されている 平さんのお話を伺う中で、福祉に対する思いを聞かせていただくことができました。

中越(悠) よろしくお願いします!まずはカルスト会 のことについて教えてください。

中越(平) 昭和 56 年の国際障害者年を契機に、当時 の高幡地区9ヵ市町村には身体障害者の療護施設が必 要との判断から、昭和 57 年高幡身体障害者療護施設 組合(当時9ヵ市町村、現在5ヵ市町で構成)により 身体障害者療護施設梼原みどりの家が設置され、その 運営を組合よりも柔軟性があり、公益性・公共性の高 い社会福祉法人に委託することになり、梼原みどりの 家を運営するために社会福祉法人梼原町身体障害者福 祉会が設立されたのがカルスト会の始まりです。その 後、昭和 62 年にデイサービスセンター梼原ふじの家 を開所し、平成3年には特別養護老人ホーム梼原ふじ の家を開所。特養開所に伴い、平成2年に法人名を力 ルスト会に変えました。

松本 平さんがカルスト会に関わったきっかけを教え てください。

中越(平) Uターンして JA で勤めた後、社協に勤務。 介護保険制度の始まった平成 12 年に出向でカルスト 会へ、その1年後に社協とカルスト会の一元化があり、 カルスト会の職員として勤務。いろんな仕事してきた けど、福祉の仕事が一番長いです。他の仕事は10年 そこそこしかもたなかったので(笑)

中越(悠) カルスト会に勤務してきた中で、印象に残 っていることはありますか?

中越(平) 一番はみどりの家の施設長の時に、みどり の家の全面改築に関わらせてもらった事です。改築中 は大越の体育館の駐車場にプレハブを建てて、利用者 は大方1年そこで過ごしました。いろいろありました ね。改築に限らず、介護保険制度の施行や障害者自立 支援法等、福祉制度の節目でいろんな体験をさせても らいました。

松本 法人を運営していく上での目標や思いを教え てください。

中越(平) 誠実・敬愛・信頼。この3つの理念を職員 と共に実践し、お互いに信頼関係を築いて日々頑張っ ていかなければいけないと思います。利用者の人権を 守って安全・安心な介護に努め、未来永劫安定的に経 営していくことが一番大事なことだと思っています。 後は地域との関わり。地域の皆さんに協力してもらっ ているので、地域に貢献できるところはしていきたい と思っています。生活困窮者の職業訓練の場を提供し たり、町の文化祭で出展させてもらったり、できるだ け地域との関わりを持ちたいです。

地域の方も施設にかまんときにはふらっと来て、覗 いてもらえればうれしいです。利用者も喜ぶし、職員 もいい意味で緊張すると思いますし、気軽に来てもら える施設になったら嬉しいです。

中越(悠) では最後にひとこと、お願いします。

中越(平) カルスト会は地域の住民の方々に支えら れて今日まで発展してきた法人なので、ぜひ気軽に立 ち寄ってもらいたいし、これからもご支援・ご協力を いただきたいです。私たちもできることは精一杯やっ ていきたいと思っています。

中越(悠)・松本 ありがとうございました!

次回は 梼原町老人クラブ連合会 中越 順市さん です!お楽しみに!

輝く梼原人!み~つけたっôô!

皆さんがひょっとしたら知らない、梼原で頑張っている人たちを紹介するコーナーです。

推進員で仲間づくり

この推進員になったのは2回目の2年目。 今年は、認知症に関することが多かったんで すよ。5月には「げらげら出前カフェ」が四 万川であって、楽しく頭を使って認知症予防 が勉強できてよかったです。健康づくり発信 事業も一昨年から始まり、急に仕事が増えた 感じで、最初は発信事業?ナニ?と思いまし たがやってみたら楽しかったです。班長さん が集まって高知とか窪川に研修へ行くことも あり、他の地区の班長さんと話せて、知らな かったことなどあって面白かったです。班長 になったら楽しいと思いますよ(笑)

▼ 四万川区の健康づくり発信事業の様子



職場の人に聞いてみた!! 廣瀬さんってこんな人

普段から明るくて、職場が楽しくなる方です。いな いと寂しいですね(笑)あと、栄子さんに用事があ ってくる人が多いです。(笑)





四万川区の下組にお住まいで

されています。

郵便局にお勤め。健康文化のま

ちづくり推進員の班長も引き受

けられており、日々お忙しく活動

昭和 38 年生まれ。東区川西路出身、現在は四万 川区下組に在住。四万川郵便局で勤め、健康文化 の里づくり推進員の班長を務める。

めぐることが好き

お城巡りと郵便局のみんなで御朱印集めを しています。お寺、神社の御朱印があり、四 国88箇所以外のところもあります。

和霊様で押してもらった事がきっかけで始 めました。綺麗ですよね。円明寺(四万川の 茶や谷地区)と同じ宗派のものもあります。 年齢とともに花を愛でるような感情も湧いて きて、桜めぐりのようなこともしています。

廣瀬さんが集めた御朱印



Cover's Story

「 バリアフリーXmas 」

主催 梼原町保健福祉支援センター

対象者 梼原学園4年生,梼原竹ぼうきの会,民生委員など

ねらい 障がいのある人もない人も、お互いに理解を持ち、助け合える バリアフリー社会を目指す事。





毎年梼原学園で開催されている「心のバリアフリークリスマス会」。社協はレクリエーションを担当させていただいています。会場は竹ぼうきの会、民生委員さん、エプロン会、よつば会などの皆さんがあっという間にクリスマスらしく飾りつけをしてくれました。

今年も梼原学園の4年生・竹ぼうきの会・地域の方が参加して、小学生によるリコーダー・俳句の発表、 竹ぼうきの会の方からすみれホームの紹介などをして頂きました。その後のレクリエーションではチームに 分かれてゲームを行い、「どうする?」とみんなで考えたり「やったー!」と喜んだり・・・皆さん和気あいあい と楽しんでくれました。

梼原学園の 4 年生からは、「すみれホームに遊びに行ってみたいと思った」「知らない人とも仲良くなれた」「竹ぼうきの人たちがどんなことをしているのか分かって良かった」「またやりたい」など感想をたくさんいただきました。このような場がもっと増えればいいなと思います。

梼原町社協 松本

1 3 2 4 5 6 -

** 表紙の写真について **

- ①越知面区健康づくり発信事業のミニ運動会で縄ないをしている沖田八代恵 さんと川上幸子さん
- ②商工会女性部が主催する町内清掃の様子
- ③川上電器の看板犬、パグのマイクくん(5代目)
- ④上田咲来(さら)さんと心結(みゆ)さん、愛犬さくら。思わず笑顔になる一枚
- ⑤⑥心のバリアフリークリスマス会で行われたレクリエーションの様子

☆ 表紙で使う写真を募集しています! ☆

いつも梼原町社協広報誌「ゆすまいる」を見て頂きありがとうございます。「ゆすまいる」では表紙に載せる写真を募集しています。「梼原」「笑顔」をテーマに、笑った人が写った写真、笑いたくなる写真、梼原町の景色、生き物などの写真を提供頂けたらと思います。構わない方は社協までご連絡ください。担当:宇賀・西村・中越(悠)

発行元: 社会福祉法人 梼原町社会福祉協議会 住所: 高知県高岡郡梼原町川西路 2321-1 発行責任者: 樋口 益也 電話: 0889-65-1235 ホームページ: https://www.yusuhara-shakyo.jp/